

■肢体不自由のある子どもたちへの実践事例

読書活動の学習場面での マルチメディアDAISY図書を活用

東京都立墨東特別支援学校
河野 聡美

はじめに

本校は、肢体不自由のある小学生から高校生までが在籍する特別支援学校です。子どもたちの障害の個人差が大きいこと、医療的ケアの必要な子どもたちも多く在籍していることが特徴です。

学校内でマルチメディアDAISY図書が再生できる端末はiPad 5台（伊藤忠記念財団から貸与されたタブレット端末2台を含む）と、ノートパソコン1台があります。また、ノートパソコンにディスクを挿入することでマルチメディアDAISY図書を再生することもできます。

昨年度は、給食前後の身体を休める時間での活用を中心に研究を行いました。今年度は、小学部の知的代替の教育課程における取り組みを中心に紹介します。

活用実態と様子や効果

（１）子どもの実態

小学部の知的代替の教育課程の4年生から6年生までの子どもたち9名の

学習グループです。内言語はあるものの「はい」「いいえ」のサインや指さしなどでいくつかの選択肢から選んで気持ちを表出したり、シンボルやイラストを見て指示や話の内容を理解したりする子どもから、実年齢に近い言葉を使って気持ちを表出したり、簡単な漢字を含んだ文章を音読したりする子どもまで幅広い実態になっています。そのため一人ひとりに合わせた学習課題を設定しています。

（２）取り組み内容と実際

国語的内容と算数的内容を組み合わせた学習を個別と集団の両方で行っている「国語・算数」という教科の学習や毎日の給食前の30分間の「課題の時間」での場面で、子ども一人ひとりの学習課題に合わせたプリントやカードの学習の他に、「本を読もう」という読書活動にも取り組みました。

①個別の学習での取り組み

タブレット端末やノートパソコンで

マルチメディアDAISY図書を使用して音読をしたり、読み聞かせを聞いたりしてから読んだ本の内容に関する個別のプリント課題に取り組みました。子どもの実態や課題、興味、関心に合わせて本を選ぶようにし、文章の長さも子どもが無理なく、簡単すぎずに集中して最後まで取り組めるような長さのものを一人ひとりに合わせて選ぶように配慮しました。



マルチメディアDAISY図書で音読をする様子



マルチメディアDAISY図書で読み聞かせを聞く様子

簡単な文章を読むことのできる子どもには、文節の切れ目や話の内容を意識して読むというねらいをたてました。

ひらがなが読めるようになってきた段階の子どもは、ひらがなに触れる機会を増やし文字を単語として捉えられるようにというねらいで、シンボルやイラストで理解することができる子どもは読み聞かせの音声と画面の絵から話の内容をイメージしながら話を楽しむことができるようにというねらいで、本を選んだり、プリント課題の内容を設定したりしました。



マルチメディアDAISYで読み聞かせを聞く様子

文字を読むことのできる子どもの場合、あえて音声を切った状態に設定をして「文章を声に出して読む」というルールをつくりました。これは、音読が上手になることを第一の目的としているわけではなく、子どものほとんどが声に出して読むという経験が少ないのではないかと感じていたためです。

また、能動的に読書に取り組んでほしいとも考えました。実際に声に出して読んでみることで飛ばして読んでしまったり、流し読みをしてしまったりすることが少なくなり、じっくり最後

まで読書に取り組むことができているように感じました。

また、初めのうちは小さく不明瞭な発声で音読をする子どもが多かったのですが、繰り返し取り組んだことで、大きなはっきりとした発声で自信をもって取り組めるようになった子どもが増えました。

紙媒体の書籍では自分が読んでいる場所を目で追うことが難しく、どこを読んでいるのかわからなくなってしまふ子どもは、マルチメディアDAISY図書の文字の背景のハイライト機能のおかげで、自分が今読んでいる場所をすぐに見つけることができ、スムーズに読書に取り組むことができました。



ハイライト機能を活用して音読に取り組む様子

プリント課題は子どもたちの実態に合わせて、おもに3種類作りしました。簡単な漢字を含んだ文章を音読したりする子どもには、話の内容を意識して読書に取り組むことをねらいにしました。読んだ本の題名を書き、その本の内容に関する簡単な問いに答える課題

を設定しました。この問いの内容や難易度は同じ本を読んだ子どもでもその子どもの実態や課題に合わせて変化させました。

ひらがなを学習中の子どもには、読んだ本の題名や話の中で登場するフレーズを書き写す課題を設定しました。本の題名や話の内容を実際に書き写すことで落ち着いて本の題名や内容を振り返ることをねらいにしました。

シンボルやイラストで理解をすることのできる子どもには、自分がどの本を読んだのかを振り返ることをねらい、自分が読んだ本をいくつかのシンボルやイラストの中から正しく選んで丸を付けるという課題を設定しました。

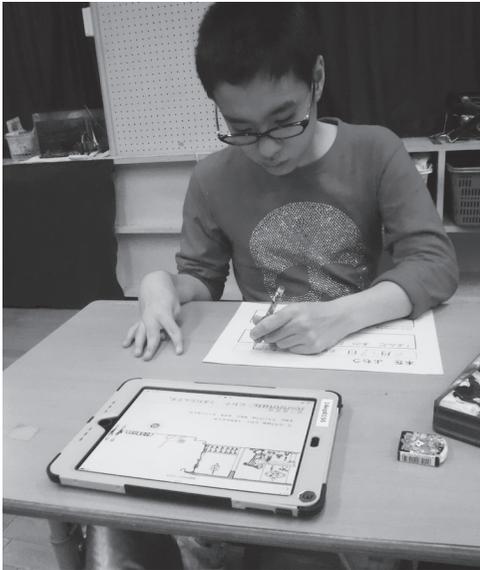
また、これらのプリント課題は読書したという経験を振り返ったり、定着させたりするためであり、プリントの課題に正しく答えられることが一番の目的ではないので、子どもが簡単に取り組むことができるような内容や難易度に設定するように心がけました。



プリント課題に取り組む様子



プリント課題に取り組む様子



プリント課題に取り組む様子

本の内容を選ぶ際に、子どもの興味や実態に関係するものを選ぶことが多いのですが、興味や関心を広げてほしいという思いや、子どもの発達の段階に合わせてあえて子ども自身では選ばないような内容の本を課題として設定することもありました。

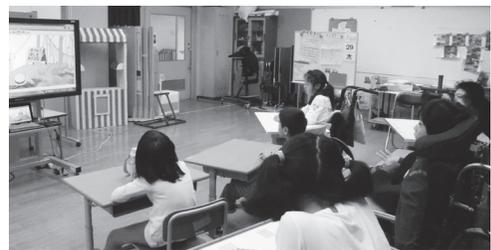
初めは不満そうに読み始めることがほとんどですが、いざ読書を進めていくと、話に夢中になり、読み終わりに「この本おもしろかったよ」と言っ

てくれることも多く、図書館で手に取る本の種類に広がりが見られるようになってきました。

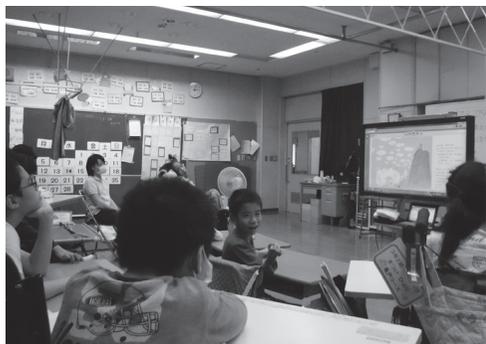
②集団の学習での取り組み

個別での学習の他に学習グループの全員で読み聞かせを楽しむという取り組みも行いました。タブレット端末やノートパソコンの画面では、複数の子どもたちが一緒に見るには小さすぎるので、ノートパソコンを電子黒板に接続して行いました。子どもの実態の幅が広いので、子どもたちに馴染みがあり、絵が多めの紙芝居風の本を選ぶようにしました。少し長いかと心配していた15分程度の話でも、子どもたちは最後まで集中して聞くことができ、驚かされました。

読み聞かせを聞いている間は静かにしなくてはいけないというようなルールはあえて作りませんでした。子どもは読み聞かせのフレーズの真似をしたり、話の内容に入り込んで思ったことを声に出したりしながら、みんなで一つのお話を楽しむことができていたように感じます。



電子黒板を利用して集団で読書を楽しむ様子



談笑しながら読み聞かせを楽しむ様子



読書活動の振り返りをしている様子

また、読み聞かせを聞き終わった後に、思ったことや話の中で気に入ったフレーズなどを発表したり、実際の紙媒体の書籍を紹介したりする時間を設定しました。単に感想を発表するだけでなく、子ども同士で気持ちを共感する場としての役割もあり、活動の振り返りも行うことができました。

本のタイトルは、子どもの実態や他の学習活動の内容などに合わせて基本的に教員が選んでいましたが、次第に子どもから本のリクエストが出るようになってきたり、次はいつするのかといった予定を聞いてきたりと期待感をもって取り組んでいる様子が見られるようになってきました。

さらに、取り組みの後に子ども同士で本の登場人物になりきって遊ぶ様子が見られるようになるなど、学習グループのみんなで同じ話を聞くことで共通の話題ができ、子ども同士のかかわり合いが広がりました。



子ども同士で実際の本を見て話をしている様子

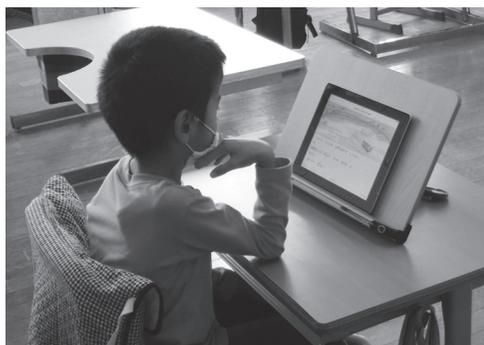
③休憩時間の様子

学習でマルチメディアDAISY図書を利用するようになってから、休憩時間にも教室に置いてあるタブレット端末を持ってきて「デイジーしてもいい？」と聞いてくる子どもが増えました。黙々と一人で読書をするだけでなく、自ら「いっしょにみせて」と言って子ども同士で読書を楽しむなど、思い思いに読書をする姿が見られるようになってきました。

時には言い合いをしてしまうこともあります。読む本のタイトルを何にするのか、誰が使うのかなども子ども

同士で話し合うなどして決められるようになってきました。このようなやりとりから社会性やコミュニケーションの力を身につけていけるのではないかと考えているので、休憩時間で読書をするときには、あえて教員が間に入ったりせず危険がない範囲で見守りに徹するようにしています。

学習の時間に読んだ本をもう一度読みたいということも多いです。また、反対に、休憩時間に読んだ本を学習の時間にも読みたいといったようなリクエストをする子どももいます。



一人で読書を楽しんでいる様子



友達と一緒に読書を楽しんでいる様子

おわりに

本校でマルチメディアDAISY図書を

導入して、今年で3年目になります。校内研究やマルチメディアDAISY図書の使用方法に関する自主研修会、「図書館だより」などで教職員だけでなく、保護者にも使用方法や取り組んでいる様子を周知する働きかけを行っていますが、まだまだ利用する教職員や取り組みを知っている保護者は少ないのが現状です。

「マルチメディアDAISY図書自体はとても良いものだと思うけれど、児童や生徒にどのように活用したらいいのかがわからない」という声が多く聞かれます。

使い方や機能を紹介するだけではなく、具体的にどんな児童・生徒に、どのように活用しているのかを紹介する機会がより必要だと感じます。

また、紙媒体の書籍など、デジタルコンテンツ以外が適している場面も確かにあります。単に電子書籍を活用していけば良いというわけではないのだということを理解したうえで、目の前の子どもたち一人ひとりに適した読書の方法を考えていくことが求められるのではないかと実感しています。

今後、たくさんのマルチメディアDAISY図書の活用方法が理解されていき、障害の有無に関係なく読書の一つの手段として当たり前となり、いろいろな場で活用されるようになっていくことを期待しています。